

第1学年〇組 道徳科学習指導案

平成29年〇月〇日（〇）

授業者 教諭 永木 龍也

1 主題名 自分自身が輝く生き方について考えよう

内容項目[D 生命の尊さ] 関連価値[C 家族愛]

2 ねらい 限りある命を輝かせるには、どのように生きたらよいのか考えることを通して、いのちの尊さについて理解し、よりよく生きようとする態度を育てる。

教材名 「父へのメッセージ」（出典：「彩の国の道徳」（中学校）『自分をみつめて』）

3 主題設定の理由

（1）ねらいや指導内容について

内容項目[D 生命の尊さ]は、「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。」をねらいとしている。小学校においては、各学年の発達の段階に応じて、生命を大切にすること、生命の尊さを理解すること、生命は多くの生命のつながりのもとに新たに誕生しかけがえのないものであることを学んでいる。すなわち、生命の連続性、有限性、偶然性など神秘的でかけがえのない生命を尊重することについて学習をしてきている。

近年、家庭環境や急激な社会の変化など生活様式の変化により、自然や人間との関係が希薄になり、生命の尊さについて考える機会が失われつつある。「生命の尊さ」という道徳的価値には、大変深いものがあり、生命そのものに対する理解が前提となっはじめて考えることができる。そのような理解を深めながら、「生命の尊さ」について多様な視点から考えを深め、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他者の生命も大切に尊重する態度を身に付けさせていきたいと考える。

また、関連価値として内容項目Cも大切にしていきたい。内容項目Cは「父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。」をねらいとしている。

自分の成長を心から願い、多大なる愛情をもって育ててくれた両親に深く感謝し、行為として表し、家族に対し自分の役割を果たそうとする態度についても考えていきたい。

以上より、本授業では主題名を「自分自身が輝く生き方について考えよう」と設定し、主人公の生き方を通して、限りあるいのちの中でよりよい人生を送り、より生きがいを感じるためにはどのように生きていけばよいのか、命の存在価値を高めるという行為について考えさせていきたい。

（2）これまでの学習状況及び生徒の実態について

本学級の生徒は、（略）。本授業はいのちの単元において3時間目となる。1時間目には、いの

ちを中心に据え、関連する言葉、関連する事柄をつなげていくのちに関するマインドマップの作成を行った。2時間目には、「〇〇」を教材として用いて、いのちのつながりについて学習した。それらを通して、いのちは両親から受け継がれるもの、いつか終わりが来るものなど、生活していく中で自然と実感することについては当たり前のように感じている。しかし、いのちが代々受け継がれ、途切れることなくこの瞬間までつながっているという奇跡的なものや小さな確率でこの世に誕生し今を生きているという奇跡、それぞれのいのちに存在する価値などについては、考える機会がこれまでほとんどなく、理解が乏しいように感じられる。「いのちの尊さ」については様々な角度から多様に考え、議論することができ、1年生においては、授業の中で「いのちの尊さ、大切さ」を中心に道徳的価値を深めさせていきたいと考える。

(3) 教材の特質や活用方法について

主人公の由樹は、バレーボール部の合宿に参加していた。合宿中のある日、母から「お父さんが救急車で運ばれた」との電話連絡が入る。由樹は県の選抜選手でレギュラーにも選ばれ、毎日が充実している中での出来事だったため、驚き、ショックを受ける。病室にいる父と対面し、家に戻ると母から「お父さんは、思ったよりも容体が悪く、重病である」と聞かされる。「しばらく入院すれば元気になるんでしょ」と聞き返すも、母は何も答えない。父は、そう長くは生きられないことを察するのである。そして、母から「なるべくお父さんのそばにいてあげてね」と声をかけられるのである。

由樹は県の選抜にも選ばれているため、バレーボールの練習を休むわけにはいかない。自分だけではなく、チームにも迷惑をかけてしまう。しかし、大切な家族である父のそばに寄り添わないわけにもいかず、思い悩むのであった。由樹が葛藤する場面を取りあげ、自分を由樹に置き換えて、多面的・多角的な視点で考え、どのように判断したらよいのかを考えさせていきたい。

翌朝、顧問の西野先生に相談し、西野先生から「精一杯看病すること。またバレーボールがやりたくなったらいつでも戻ってきなさい」と言葉をかけられる。その後、毎日病院へ通い詰めるが、ある日、父から「好きなことに夢中になっている由樹がみたい。練習に行ってきたなさい」と驚きの言葉をかけられ、どうしようか悩みながらもとりあえず練習に参加するのであった。父にかけられた言葉と練習に参加して気付いた気持ちをもとに、自分が輝く生き方について考え、輝くいのちについて道徳的価値を深めさせていきたいと考える。

4 本校の研究主題との関わり

<研究主題>

「主体的に学ぶ生徒を育てる教育活動の創造」～学びに向かう望ましい集団活動を通して～

道徳の時間の学習では、中心的な教材が生かされ、生徒の体験や教材に対する感じ方や考え方を交えながら話し合いを深めることが学習活動の中心となることが多い。生徒は他者と対話することを通して、自分の意見と比べ、共通点や相違点を知り、さらに深く自己との対話も生まれ、自らの道徳的価値観やそれに基づいた人間としての生き方に自覚を深め追及していくことを促すことになる。また、書く活動を通して自分自身のものの見方、考え方、感じ方を確かめ、それをもとに今までの自分を振り返ることができる。そこで、以下の手立てを取りながら言語

活動を充実させ、道徳的価値の自覚及び人間としての生き方を自覚させるよう、ねらいを達成していきたい。

〈ねらいとする価値についての考えを深めるための工夫〉

(1) 教材提示の工夫

- ア 場面絵や写真を活用し、思考を促す。
- イ 視聴覚機器を用いて、思考を促す

(2) 役割演技

- ア 役割演技を取り入れ、自分自身の問題として深くかかわらせ、道徳的価値への思考を深める。

(3) 話し合いの工夫

- ア 意図的な小集団で話し合いをさせる。
- イ 小集団での話し合いを発表させる。
- ウ 全体で話し合い（討論）をさせる。
- エ 多面的・多角的に物事を考えさせる。
- オ 本時のねらいを明確にして話し合いをさせる。
- カ 問題を解決するために、理由を吟味させる。
- キ 社会的な正しさという視点を大切に話し合いをさせる。
- ク 話し合いメモを使って話し合いをさせる。

(4) 書く活動の工夫

- ア 振り返りのワークシートを使い、自己の生き方をじっくりと見つめさせ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を高めさせる。

(5) 発問の工夫

- ア 場面発問だけでなく、テーマ発問を取り入れ、ねらいとする価値にせまらせる。
- イ 学習テーマから、解決したい学習問題を考え、解決していくようにさせる。
- ウ 多面的・多角的に考えられるような視点をもたせる。
- エ 社会的な視点をもたせる。

5 事前指導（3時間扱い）

本時を含め、いのちの単元として3時間扱い。

1 時間目…いのちについてマインドマップの作成

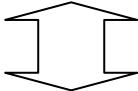
2 時間目…「〇〇」（教材）

3 時間目…父へのメッセージ（本時）



6 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ※言語活動を充実させる手立て ☆評価
導入	1 これまで2回行った命の授業の振り返りを行う。		・いのちの有限性、支え合ういのち、いのちのつながり等を思い出しながら、ねらいにつなげる。
展開	2 「父へのメッセージ」(前半)を読んで、話し合う。	ねらい 自分自身が輝く生き方について考えよう。 短冊を用いてテンポよく条件・状況の説明をする。 主人公 私(由樹)… 県バレーボール選抜選手、レギュラー選手 父…救急車で運ばれ入院、重病、残り少ない命 本時で考える道徳的問題を明らかにし、出された問題について全体で考えていく。 ①由樹が困っていることは何だろう。 ②自分だったらどちらを選択するだろうか。 (第1次判断)	・範読の前にねらいを示す。 ・教材を把握しやすいように短冊等を用いて登場人物を紹介し、話の流れを理解しやすくする。 ・生徒の反応を確かめながら範読を行う。 ・P37の下段(由樹が思い悩む場面)まで範読を行う。 ・本時で考えるべき学習問題を確認し、把握させる。 ・バレーを優先させるか父の看病をするかで思い悩み、葛藤していることを押さえ、同時に由樹が出来ることであることを確認する。 ・個人で考え、判断し、選択した行為と理由をワークシートに記入させる。 ・2つあるそれぞれの行為を選択す

	③小集団で意見交換 を試みよう。 (小集団での話し 合い)	第1次判断 <u>父の看病をする</u> ・命のほうが大事。 ・残り少ないいのちだから。 ・亡くなってしまったらもう会えないから。 ・父の看病は今しかできないから。 ・大切な家族だから。 ・父のそばにいてあげたほうが良いに決まっている。 ・父に感謝しているから。 ・あとで後悔するかもしれない。 ・バレエはいつでもできる。  <u>バレエを優先させる</u> ・本当は看病してそばに居たいが、父のためにも自分のためにも頑張ったほうが良いと考えたから。 ・バレエで活躍したほうが父が喜び父のためにもなるから。 ・バレエの練習をして、活躍したいから。 ・チームに迷惑がかかるから。 グループで話し合わせると、父の思いをくみ(娘の頑張る姿で父も元気になれるなど)、判断する生徒が少数だった。 父の思いまでは考えていなかった生徒が、自分とは異なる他者の考えに触れることができた。	ることで、どのようなことが起こりうるか考えながら総合して判断させるようにする。 ・挙手でどちらを選択したのか確認する。 ・理由づけを聞き、納得できるかどうか吟味しながら議論へつなげていく。 ・同じ意見や考えでも理由が違っていることがあることを伝え、他者がどのように判断しているのかに注意して話し合いをさせる。 ※小集団で意見を聞きあわせる。 【(3)ア】 ※小集団での話し合いを再現させる。【(3)イ】 ・小集団の話し合いの再現をみて、どのように考えたかを問う。 ・総合的に考えて判断するために、それぞれの行為を選んだことでどのようなことが起こりうるかを考えさせる。
--	--	--	--

④それぞれの行為を選んだことによって起こりうる結果を考えてみましょう。

(補) 由樹がバレーで活躍したら父はうれしいのかな。

由樹の行為について多面的多角的に考える場面。

3 「父へのメッセージ」(後半)を読んで、話し合う。

⑤父はどのように思っているのだろう。

「なぜ父はそう思うのか」を切りかえして問う。

父の看病をする

good

- ・父が喜ぶ。父はうれしい。
- ・父のそばに居られる。
- ・父と一緒にいることができる。
- ・お互い安心できる。
- ・父の容体が変わってしまうかもしれない。
- ・母の希望通り。

bad

- ・バレーの練習に参加できない。
- ・チームに迷惑がかかる。
- ・やりたいことができなくなる。
- ・後で後悔するかも。

バレーを優先する

good

- ・バレーで活躍すれば父が喜ぶかも。
- ・父を元気づけられるかも。
- ・チームにとってはうれしい。
- ・やりたいことはできる。

bad

- ・父のそばにいられない。
- ・練習中に亡くなってしまうかも。
- ・自分が後で後悔するかも。
- ・父が悲しむかも。
- ・不安になる。

- ・由樹の成長が見たい。
- ・元気に頑張ってほしい。
- ・バレーを頑張ってほしい。
- ・自分のことよりも由樹には、やりたいことをやってほしい。
- ・由樹がバレーをしている姿をみた

・思考ツールの座標軸を使い、視覚的に見えるようにすることで理解や考えを深める。

・いろいろな角度から行為の結果について予測し、さらに考えさせる。

・1つずつ納得できるかどうか吟味しながら進める。

・父の思いや願いにも触れながら進めていく。

※出された意見を全体で吟味する。【(3) ウ】

☆お互いに表現しあうことで他者を理解し、自己理解を深めながら価値の自覚が深まったか。(発言内容)

☆自己の価値が明確になったか。(発言内容)

☆他者の意見を聞き価値の自覚が深まったか。(発言内容)

※多面的・多角的な視点で考えさせる。【(3) エ】

☆物事を多面的・多角的に考えることで思考が深まったか。(発言内容)

☆他者の意見を聞き考えを深められたか。(発言内容)

・「父は由樹にどういう生き方をしたいのだろうか」と投げかけ、後半(P37の続き～)の範読を行う。

・後半の内容から父の思いや願いを押さえる。

(補) 父にとって、頑張る由樹の姿にはどういう意味があるのだろう。 ⑥自分自身が輝く生き方をするために大切なことは何だろう。 4 最終判断をする。 5 今日の学習を振り返り、自己の在り方を見つめる。	い。 ・娘に対する愛情。 ・生きがいになる。 ・元気の源。 ・勇気づけられる。 ・自分らしく生きる ・自分の好きなことを思いっきりやる。 ・前向きに自分らしく生きる。 ・今を大切に生きる。 ・他者(父)の気持ちに応えることで自分を輝かせることができる。 ⑥の発問で、生徒から「自分の好きなことや、興味のあることを頑張る」という意見が出た。しかし、それだけでは浅く、そこから、「由樹の幸せは父の幸せにつながる。自分のことも大切、そして父のことも大切。人は人に支えられつつ、つながっている」ことにもっていけるとよかった。	・父の由樹に対する思いや願いの根底にある部分を考えさせる。 ・父の思いが由樹に対する愛であり、父として娘に願う愛であることを押さえていく。 ・父の思いや願いに由樹は気付いたから、バレーボールに専念して頑張ろうと決意したことを押さえる。 ・自分自身の輝きは、自分だけではなく他者をも幸せにすることに気付かせる。 ・今日の考えを通して最終判断をさせる。 ・学習課題に対する自分の考えをワークシートにまとめさせる。 ※書く活動を通し、自己の生き方をじっくり見つめさせ、道徳的実践意欲を高めさせる。【(4) ア】 ☆学習課題に対して自分の考えを表現することができたか。(記述内容) ☆自分の生き方と比べながら考えることができたか。(記述内容) ・主人公の生き方を通して気づいたことや、今までの自分の在り方について考えたこと等を机間指導しながら把握する。
---	---	--

終 末	6 教師の説話を聞き、ねらいとする価値を心に留める。	・父を担任に、由樹をクラスの生徒にたとえて担任の願いを話す。 ・ねらいとする価値を心の中で深められるように余韻を残して終わるようにする。
--------	----------------------------	---

7 評価の視点

- ・話し合いがねらいに即して行われ、個々の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする中で自分の考えを深めることができたか。(発言・話し合い)
- ・多面的・多角的な視点で問題を考えることができたか。(発言・話し合い・ワークシート)
- ・「輝く生き方」について自分の生き方と比べながら考えることができたか。(発言・ワークシート)

8 板書計画

